



兵庫中央病院

2023 冬号 vol.34

地域医療連携室だより

<https://hyogochuo.hosp.go.jp>

CONTENTS

新年のご挨拶

脳神経内科とパーキンソン症状

脳神経内科病棟のご紹介

神経難病疾患のリハビリテーション

認知症診断に核医学検査

院内保育所リニューアルオープン

外来診療担当表



当院の基本理念

私たちは患者さんに真心のこもった良質で効率的なサイエンス・アート(科学・技と心)の医療の提供を目指します。

1. 私たちは、患者さんの基本的人権を尊重します。
2. 私たちは、質の高い政策医療を推進するとともに、地域医療に貢献します。
3. 私たちは、健康増進や予防医学へ積極的に参画します。
4. 私たちは、多様なニーズに対応できるよう日々研鑽し、医療の安全に努め、患者さんから愛される病院を目指します。
5. 私たちは、経営基盤を強化し、健全な病院経営を行います。



新年のご挨拶



病院長 里中 和廣

新年あけましておめでとうございます。2023年はどんな年になるのでしょうか？今年こそアフターコロナ、ウィズコロナの時代となり、新型コロナがインフルエンザウィルスと同じような扱いになるのでしょうか？

この文章を作成している時点（11月10日）では、そろそろ第8波が来るのではないかと、インフルエンザと同時流行するのではないかと危惧されている状態で、兵庫県における新規感染者数は連日1～2千人程度で推移しています。

2020年から日本の医療は新型コロナの影響下にあり、多くの医療資源（ヒト、モノ、カネ）が新型コロナ感染症対策に使われました。そのあおりで、各種がん検診が十分に実施されず、進行がんの発見が増えてきたというなんとも悲しいことが起こっています。

今年は、地域医療構想など新型コロナ以外の話題が再認識されることでしょう。一口に医療といっても、様々なものがあり、5疾病（がん、精神疾患、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害時における医療、無医地区や離島における僻地（へきち）医療、妊娠・出産・新生児までを対象とする周産期医療、小児医療）が政策医療として、各都道府県が作成する医療計画の中心となっており、多くの医療職の方が日々業務に励んでいます。今後は、「新興感染症等の感染拡大時における医療」も加わり6事業になります。

しかしながら、そこには含まれないが必要な医療も多く存在します。私共が主に行なっているセーフティネット系医療（筋ジストロフィー、神経筋難病、重症心身障がい児者、結核など）もそこに含まれない医療のひとつであり、「誰かが実施しなければ患者さんたちの受け皿がない」という分野の医療です。

国立病院機構の一員として、今まで誇りを持って行ってきた分野ですが、中心となる医師の高年齢化が問題となり、今後も持続可能かどうか、専門家をどのように育成するかが懸念事項となっています。

当院でも、医薬学部の学生実習、前期研修医の病棟見学等を毎年行い、若者たちに興味を持って貰おうと努力していますが、残念ながら良い結果が得られず現在に至っています。

最先端の医療、需要の多い医療、注目される医療に興味向き、やってみたくなることは仕方のないことですので、我々も、いかに次世代の医療職の方々に興味を持ってもらい、やってみたいと感じさせるようにさらなる工夫が必要と感じています。できれば、学生講義の中で少しでもセーフティネット系医療の話題をして頂ければと思う次第です。

今年もセーフティネット系医療を継続し、地域医療にも貢献できるように努力したいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。

脳神経内科とパーキンソン症状

脳神経内科診療部長 二村 直伸



はじめに神経内科が脳神経内科に変わった経緯をご説明いたします。当院では2020年4月から変更致しました。私達が専門とするNeurology(神経病学)を診療科名とするときに、神経科はすでに精神科の先生方が精神科・神経科として広くお使いです。また、神経内科という標榜では担当する領域に混乱が生じているということで、脳神経外科のカウンターパートとして脳神経内科と標榜することを日本神経学会から依頼されました。実際改称後は、精神症状を訴えて間違っ受診される患者さんは減りましたのでその効果はありました。

さて、脳神経内科外来では、頭痛、筋力低下、しびれ、めまい、けいれん、ふるえ、意識障害など、脳、脊髄、脳神経、末梢神経、自律神経、筋肉に由来する様々な病気を担当させて頂いております。さらに専門外来として物忘れ外来、頭痛外来、筋ジストロフィー外来をご存知の方も多いと思います。

今回は入院患者さんの多くを占める神経難病、中でもパーキンソン症状を呈する病気の概要とそれらに対する取り組みを紹介させていただきます。

まずはパーキンソン病です。安静時振戦、筋強剛、動作緩慢、姿勢反射障害などがゆっくり進行します。発症後数年間は治療に比較的良く反応し、その頃はハネムーン期と呼ばれます。しかしさらに進行すると、薬が効きにくくなり、介助が必要となってくることもしばしばです。

次にレビー小体型認知症は、老年期認知症の中で、変動する認知機能障害、幻視、パーキンソン症状、レム睡眠行動障害を特徴とする認知症で、要介護状態になりやすい病気です。

多系統萎縮症は、ふらつきなどの小脳症状、立ちくらみや排尿障害と言った自律神経症状、パーキンソン症状を呈する神経難病で、進行性核上性麻痺は、易転倒性、思考緩慢、パーキンソン症状を主とする神経難病で、大脳皮質基底核変性症は、失行といって思い通りに動作が出来なくなったり、ミオクローヌスというピクッ、ピクッという不随意運動、パーキンソン症状を主とする神経難病であります。

パーキンソン症状を呈する疾患は、パーキンソン病が中心となりますが、鑑別すべき疾患がたくさんあります。当院では、外来、入院で、神経診察に加えて必要に応じて頭部MRIや、各種RI検査(脳血流SPECT DATスキャン MIBG心筋シンチ)を行い鑑別診断しておりますのでどうぞご利用下さい。また、進行期に入り、在宅療養が難しくなってきたり、リハビリが必要になった患者さんに、レスパイト入院、リハビリ入院、療養入院を適宜受け入れております。対象患者さんに関するご質問、ご依頼はどうぞ地域医療連携室にご連絡ください。

脳神経内科病棟のご紹介

東3病棟 副看護師長 谷池 美佳

兵庫中央病院には脳神経内科を専門とする病棟が3病棟(南2・南3・東3)あります。

長期間入院されている方がほとんどですが、リハビリテーション、薬剤コントロール、レスパイト目的で短期間のご利用も積極的に受け入れています。

様々な神経難病の患者さんが入院されていますが、中でもパーキンソン病が最も多く、全体の3割近くを占めています。そこで、当院のパーキンソン病の看護についてご紹介します。



パーキンソン病は、手足のふるえ(振戦)、身体のこわばり(筋強剛)、動きが遅くなる(無動)、転びやすくなる(姿勢反射障害)などの症状がおこる病気です。病状の進行により、日常生活動作の援助が必要になってきます。

日常生活をより安全に送っていただくためには、正しくお薬を服用していただく必要があります。病院では、ON・OFF表を用いて、お身体の動きやすさを記録し、薬剤の効果を確認しています。決められた時間に正しく薬剤を服用でき、日常生活のリズムに合わせて最大の効果を発揮することができるよう服薬管理を行っています。

日常生活の中では、病状の進行に伴い転倒、骨折の危険が高くなります。日常生活動作を維持するために、服薬管理と同時に、環境を整え、リハビリテーション科と連携し、日常生活の支援を行っています。



また、パーキンソン病の患者さんは病状の進行により嚥下障害が出てきます。

患者さんの『食べたい』気持ちを尊重し、できるだけ安全に、おいしく食事を楽しんでいただけるように援助しています。嚥下造影検査や、言語聴覚士、栄養士と連携して嚥下評価を行い、患者さんの嚥下状態に合わせた食事形態や食事の姿勢を調整しています。

経口摂取が困難となった患者さんは、経鼻経管栄養チューブ、胃瘻造設を行い経管栄養を実施されることもあります。状態に合わせて少量の嗜好品を楽しんでいただくなどの取り組みも行なっています。

患者さん、ご家族の思いに寄り添いながら、できるだけ機能を維持できるように、様々な専門職種と協力し、入院生活をサポートいたします。



神経難病疾患のリハビリテーション

リハビリテーション科 主任言語聴覚士 船原 麻衣子

リハビリテーション科のスタッフは部長（医師）1名、理学療法士15名、作業療法士6名、言語聴覚士5名、助手1名です。リハビリテーションの処方はいわゆる院内の全診療科から受けますが、約7割が脳神経内科からの処方です。脳神経内科からの処方の大半が神経難病であり、その疾患はパーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、大脳基底核変性症などです。

神経難病は進行性疾患のため、軽い身体症状から発症しますが、次第に症状が増悪し、長期的には寝たきりになることも少なくありません。私たちは、このようないずれの時期の患者さんに対しましても、病状の進行期に応じたリハビリテーション評価および治療を行っています。



理学療法では、歩行などの移動手段を習得するために、写真①のようなすくみ足や小刻み歩行に対して、線をまたぐように大股歩行の練習を行います。作業療法では、日常生活場面の食事や更衣動作などを習得するために、写真②のような体幹・上肢の関節可動域と筋力を総合的に向上させる練習を行います。言語聴覚では、コミュニケーションの習得のために、写真③のようなペーシングボードを使用した発話速度を調整する練習を行っています。必要に応じて飲み込みの練習も行っています。

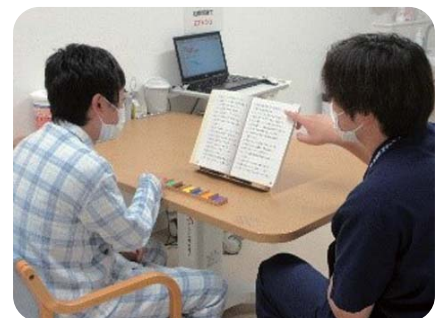
当院では「訪問看護ステーションおおはら」が地域の安心拠点となるよう訪問看護を実践しています。令和4年11月から神経難病の患者さんが快適かつ安心な自宅生活を過ごせるよう、今のところご利用いただける方は限定的ですが、神経難病に特化した『訪問リハビリテーション』事業を追加しました。地域医療サービスの貢献に向けて、当科として得意とする神経難病患者さんのリハビリテーションの拡充に努めて参ります。



写真①大股歩行の練習



写真②関節領域と筋力向上



写真③会話練習

認知症診断に核医学検査 (RI) (SPECT)

副診療放射線技師長 佐藤 竜也

脳血流シンチ・心筋MIBG・DATスキャン(ドパミントランスポーターシンチ)を主に行っています。これらの検査を行うことで、アルツハイマー型認知症(AD)・レビー小体型認知症(DLB)・パーキンソン病(PD)の鑑別診断支援を行っています。

予約

- ・地域医療連携室(窓口)
- ・検査日時予約・決定(FAXで関係書類送信)

検査当日

- ・総合受付にて受付後、放射線科受付窓口へ

検査

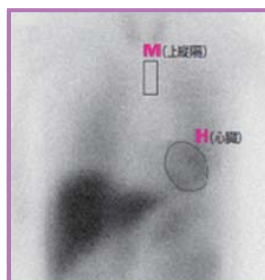
- ・AM10:00～ RI製剤注射
- ・各検査撮像

検査結果・画像

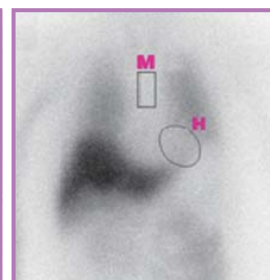
- ・神戸画像センターによる検査読影
- ・撮像画像をCD-Rに作成
- ・数日後、(読影結果、CD-R)依頼施設に郵送



CANON SYMBIA E/4C



正常



レビー小体型認知症
パーキンソン病

検査の流れ

脳血流(123I-IMP) 午前中

- ・投与15分後に約30分間の撮像

MIBG 午前、午後2回

- ・投与15分後5分間の撮像、3～4時間後に約5分間の撮影

DATスキャン 午前、午後2回

- ・投与後、3～4時間後に約30分間の撮像

検査により前処置、薬剤制限をお願いします

検査費用

一割負担

脳血流 約5千円

MIBG 約6千円

DAT 約7千円

放射線各種検査のご案内は

兵庫中央病院ホームページ 部門紹介 放射線科より

院内保育所がリニューアルオープンします

企画課長 吉崎 宣夫

当院では、今年 1 月に旧リハビリ棟を改修し、院内保育所としてリニューアルいたします。
旧保育所の場所は、病院敷地から道路を挟み比較的遠く、朝の忙しい職員にとって子供の送り迎えは大変な苦勞でした。しかし今回は看護師更衣棟に近く、子供を預けた後すぐに白衣に着替え職場に行くことができます。

また、近くの県立有馬富士公園にも近く、園児たちが散歩を楽しみ自然と触れ合う機会も増えそうです。



新しい保育所では、クラスごとの部屋の仕切りが開放され、フローアー一体型の使用が可能となり、お遊戯会などでは多くの保護者が参加していただけます。また窓も多く、感染防止対策にも配慮されています。その他床暖房やLED照明など省エネ対策にも配慮されています。

さらに、当保育園では、自園調理を行っており、アレルギーがあるお子さんにも対応しております。新しい炊飯器でご飯を炊き小さな手でおいぎりを握り、ちょっとしたお料理教室も行われるようです。おやつも手作りです。園児の健康を考え、甘さ控えめのカステラやプリンなど園児が楽しく通園してくれるよう工夫をしております。

このように院内保育所があることで育児支援体制が整っている病院として保育所探しのストレスがなく、採用率の向上及び離職率の低下が期待できます。

また子育て支援の良い環境を整えることにより、高いスキルを持ちながらも育児を理由に離職せざるをえなかった優秀な人材を採用できる可能性が高くなります。

当院では、院内保育所の運営を充実させることにより職員が安心して働くことができる環境を整え、さらに地域の皆さんに受診していただけるよう、よりよい病院運営を目指していきたいと考えております。

地域の先生方や患者さんが当院に紹介して良かった、また受診してよかったと思っていただけるよう努力して参ります。

今後とも兵庫中央病院の地域医療連携室をご利用いただけますようお願い申し上げます。



保育所(リニューアル)



近くの県立有馬富士公園

外来診療担当表

(配布用)
兵庫中央病院

令和4年12月6日より

独立行政法人国立病院機構

診 療 科		診察室	月	火	水	木	金
内科・消化器内科		2F ⑰	里中 和廣	里中 和廣 ※初診のみ	—	光永 真貴	里中 和廣
内科・消化器内科		2F ⑱	三田 敬二	生天目 侑子	三田 敬二	三田 敬二	三田 敬二
内科・消化器内科		2F ⑮	光永 真貴	—	安藤 稔	—	安藤 稔
内科・糖尿病内科		2F ⑲	福永 みちる	鴻山 訓一	鴻山 訓一	福永 みちる	鴻山 訓一
内科・糖尿病内科		2F ⑳	担当医（非常勤） （加藤 美有紀）	福永 みちる ※予約のみ	島津 浩史	鴻山 訓一 ※予約のみ	生天目 侑子
内科・呼吸器内科		1F ⑩	藤川 健弥	高木 康行	小林 弘美	小林 弘美	藤川 健弥
内科・脳神経内科		1F ⑧	足立 洋	横田 一郎	—	金星 匡人	足立 洋
内科・脳神経内科 骨粗鬆症		1F ⑨	金星 匡人	西田 勝也	坂下 建人	高木 康行	金星 匡人
脳 神 経 内 科		1F ④	河本 邦彦	二村 直伸	三谷 真紀	河本 邦彦	山崎 浩
		1F ⑤	西本 啓介	三谷 真紀	二村 直伸	西本 啓介	安藤 竜起
		1F ⑦	坂下 建人	山崎 浩	安藤 竜起	横田 一郎	西田 勝也
脳神経内科・呼吸器内科		2F ⑫	陣内 研二	担当医（非常勤） （呼吸器内科）	—	陣内 研二	舟川 格 （第3・4・5週）
循環器内科・呼吸器内科 糖尿病内科		2F ㉑	担当医（非常勤） （循内）	長谷川 順一 （糖内）	担当医（非常勤） （循内） （第1・3・5週）	島津 浩史 （糖内）	長谷川 順一 （糖内）
消 化 器 外 科		2F ⑬	藤原 英利	—	藤原 英利	—	藤原 英利
呼 吸 器 外 科		2F ⑭	—	—	宮本 良文	—	宮本 良文
整 形 外 科		1F ②	富田 佳孝	富田 佳孝	（手 術 日）	辻本 龍	辻本 龍
発熱外来 （9：00～11：00）		1F 多目的室	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
予 約 制	ものわすれ外来 （13：00～15：00）	1F ⑤			（第1・3週）山崎 （第2・4週）横田 （第5週）担当医	（第1週）西田 （第2・4週）安藤竜 （第3週）坂下	
	頭痛外来 （14：00～16：00）	1F ⑤				二村 直伸 （第2・4週）	
	筋ジス外来 （14：00～15：30）	1F ⑤				三谷 真紀 （第1・3・5週）	
	胆石・ヘルニア 静脈瘤外来 （13：30～15：00）	2F ⑬	藤原 英利 （毎週）				
	禁煙外来 （14：00～15：00）	1F ⑩	小林 弘美 （毎週）				
	1型糖尿病・ 糖尿病肥満外来 （13：30～15：00）	2F ㉑		（第1・3週）福永 （第2・4週）生天目 （第5週）鴻山			
	特定健康診査						毎週14：00～

受付時間 8:30~11:00 (ご予約の場合 ~17:00) : 内科初診
初診の患者様へ 初めて受診される場合は、玄関を入られて左側の受付カウンターにお越し下さい。
再診の患者様へ

・ご予約の場合
正面玄関受付カウンター前の再診受付機にて、診察券を投入の上、ご予約の診療科の受付をしてください。
診察は、概ねご予約時間の30分以内を予定しておりますが、当日の診察のすみ具合により遅れる場合もありますので、予めご了承ください。
・ご予約されていない場合
正面玄関受付カウンター前の再診受付機にて、診察券を投入の上、ご希望の診療科を選択してください。
(受診中の診療科のみ選択可能)。診察券がない場合は、その旨お申し出ください。
なお、前回の診察から3ヶ月以上経過している場合は初診となります(ご予約の場合を除く)。

電話での予約受付について
電話での予約受付時間は、平日12:00~16:00になります。予約のキャンセルまたは変更がありましたら、前日の上記時間帯までにご連絡
お願いいたします。(午前中は診察中につき、避けていただきますよう協力ください。)

担当医師の変更について
諸事情により、上記の担当医師が変更となる場合があります。変更予定は、掲示板にお知らせしておりますので、ご確認ください。

記

お知らせ

地域医療連携室の外来予約受付時間は右記の通りです。
今後ともますますのご利用をお願いいたします。

- 受付時間 : 平日 8:30~19:00 (木曜は17:15まで)
- 内 容 : 診察予約・画像等検査予約
- 連絡先 : TEL 079-563-2121 (代表)
0120-62-2125 (専用電話)
FAX 079-563-4646

